

博士課程教育リーディングプログラム 平成23年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
プログラム名	放射線災害復興を推進する フェニックスリーダー育成プログラム	申請大学長名	浅原利正
申請大学名	広島大学	プログラム責任者名	岡本哲治
申請類型	複合領域型（横断的テーマ）	プログラムコーディネーター名	神谷研二

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

広島大学は、世界で最初の被爆地に誕生した総合大学であり、広島原爆被害からの復興を支えてきた。特に、原爆放射線医科学研究所（原医研）は、放射線影響・医科学分野における我が国最大の大学附置研究所として、医歯薬学総合研究科（平成24年4月医歯薬保健学研究科に改組）とともに被爆者医療を担う医療人を養成してきた。さらに、21世紀COEプログラムでは、ゲノム障害科学を基盤とした新しい放射線災害医療の学術を切り開き、国際共同研究などを通じた若手研究者の育成に取り組んできた。また、原医研は放射線影響・医科学研究の全国共同利用・共同研究拠点として全国の放射線影響研究関連研究者の支援、育成にも取り組んでいる。さらに、我が国の緊急被ばく医療の拠点として2004年には「西日本ブロックの三次被ばく医療機関」に選定され、その実務活動を展開するとともに、国際的な緊急被ばく医療ネットワークである国際原子力機関（IAEA）のRANETおよびWHO-REMPANに参加し国際的活動にも取り組んできた。

福島第一原子力発電所事故を受け、広島大学は、延べ1,200名以上に及ぶ「緊急被ばく医療援助チーム」を派遣し、福島における緊急被ばく医療体制の確立・維持を指導してきた。原発災害では、人体障害や環境放射能汚染だけでなく、環境放射能汚染に対する不安とストレスの増大により、結果的に人や社会までもが破綻されることが明らかとなった。また、今回の原発災害への対応から、放射線被ばくに関する正確な学術基盤に基づいて、さまざまな分野で正しく社会をマネージすることができる人材が絶対的に不足していることが明らかになった。このような人材は、国際的にもその育成が緊急課題となっている。即ち、21世紀社会では、医療や産業での放射線利用や開発国での原子力開発はますます加速しており、国際情勢の不安定化は核テロの脅威さえも生んでいる。その一方で、放射線の安全を担保するシステムの脆弱性が明らかになっており、このような社会状況の変化に対応し、放射線安全や放射線防護、そしてそれが破綻した場合の放射線災害の軽減やその復興を指導できるグローバル・リーダーの育成が国際的に求められている。このような人材の育成には、放射線災害医療を核に環境科学、社会科学や教育学等の幅広い学際領域を包括的に統合した新しい学術である「放射線災害復興学」を基盤とした高度な教育が不可欠である。しかし、その必要性と緊急性にもかかわらず、それを実施できる機関は国際的にも極めて限られている。広島大学は、原爆からの復興を支えた実績を有することから、広島大学こそが放射線災害からの復興を「横断的かつ統合的にマネージできる人材」を育成できる最も高い能力を有する総合大学であり、このような人材の育成こそ原爆被災を経験した広島大学の使命と考えている。

本リーディングプログラムでは、原爆からの復興を支えた広島大学の実績と経験を生かして、医学、環境学、工学、理学、社会学、教育学、心理学、などの各専門学術分野を結集し、「放射線災害復興学」を確立し、放射線災害から生命を護る人材、放射能から環境を護る人材、放射能から社

会と子どもを護る人材を育成する。分野融合型専門教育として、放射線災害医療コース、放射能環境保全コース、放射能社会復興コースを置き、共通科目、専門プログラム、コースワークとして、ヒロシマ・フェニックストレーニングセンターでの実践トレーニング演習を提供する。さらに、福島県立医科大学と福島大学との現地フィールド・ワーク、放射線医学総合研究所と放射線影響研究所が参加した連携大学院や、海外連携大学、IAEAおよびWHO、関連企業、地方自治体での国内外インターシップ等の実践教育を活用して、放射線災害に適正に対応し、復興に貢献できる判断力と行動力を有した、国際的に活躍できる分野横断的統合的グローバルリーダー（フェニックスリーダー）を育成する。これらの教育を通して育成された人材により、放射線災害からの復興を牽引し、21世紀のモデルとなる、安全・安心の新社会システムの樹立に貢献する。

2. プログラムの進捗状況

- ・ 学長を機構長としたリーディングプログラム機構のもとに、コラボレーションオフィスを設置し、プログラム責任者およびプログラムコーディネーターを中心としたプログラムの推進体制を整備した。
- ・ IAEA、国際赤十字・赤新月社連盟およびWHO本部を訪問し、本プログラムの内容説明を行い、3機関とも全面的に協力すること、さらに長期インターンシップの受け入れについても了承された。さらに平成24年度には、IAEA健康部長のDr. ChhemおよびコンサルタントのDr. Rosが本プログラムのカリキュラム改善のために広島大学を訪問する予定である。
- ・ 合宿形式（1泊2日）による選抜試験（英語によるプレゼンや口頭試験、面接）を外部企業からの試験委員（中国電力原子力担当、三菱重工）とともにいった。
- ・ 第1回国際シンポジウムおよび放射線被ばく、災害に関する専門家会議を開催した（広島国際会議場、平成24年2月21日）。
- ・ 福島においてフェニックスリーダー育成プログラム全体会議を開催した（平成24年3月20日）（第2回会議：平成24年5月14日予定）。
- ・ 知的財産に関する国際法規に精通した弁護士（日本および米国）を招聘し、国際的産学官連携の契約書等の問題点について広島大学地域・産学連携センターの関係者と勉強会を開催した（ホテルグランヴィア広島、平成24年3月27日）。
- ・ 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムの日本語版および英語版ホームページを開設した（平成24年1月12日）。